

【泉区】令和5年第3回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和5年9月6日 午後2時00分 ～ 午後3時10分
場 所	泉区総合庁舎4階4ABC会議室
出席者	<p>【座長】 横山 勇太郎 議員</p> <p>【議員：2人】 梶村 充 議員、麓 理恵 議員</p> <p>【泉区：30人】 山口 賢 区長</p> <p>市川 一弘 副区長</p> <p>西野 均 福祉保健センター長</p> <p>濃野 誠 福祉保健センター担当部長</p> <p>斎藤 慎太郎 泉土木事務所長</p> <p>和田 誠名 泉消防署長</p> <p>ほか関係職員</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和5年度年度泉区個性ある区づくり推進費執行状況 2 令和4年度泉区個性ある区づくり推進費事業実績 3 令和6年度泉区予算編成の考え方（案） 4 その他 <p>（1）泉区内の道路標示の補修等にかかる対応について（報告）</p>

発 言 の 要 旨	<p>1 令和5年度年度泉区個性ある区づくり推進費執行状況</p> <p>麓議員：13 ページの「泉わくわく応援隊」について。子どもたちにボランティア活動を通じて地域に目を向けてもらう取組であると理解しているが、現在までに何人くらいの子どもたちが参加したか。また、今後全区展開するための検証を行うということだが、具体的にどのような視点から検証を進めていくのか。</p> <p>齋藤福祉保健課長：モデル実施は、8月から始めている。先月始まったばかりなので、実績としてはまだ下和泉地区のサマーフェスティバルのみとなっている。ここでは、中学3年生と中学1年生の7名が参加した。今後、参加する活動については、モデル地区のそれぞれから3件程度のお話をいただいている。具体的には、中川地区の芋堀や、緑園地区の福祉ふれあいまつりの手伝いなどが予定されている。今後、地域から助言をいただきながら、参加児童・生徒の年齢や、活動内容について検</p>
-----------	--

証してきたい。また、地区社協の活動にも積極的に来てほしいとの声も伺っている。社協との橋渡しも検証の中で検討していきたい。

麓議員：今後、進めるにあたっては、子どもたちができそうなことや、子どもたち自身がやりたいと言っている内容もぜひ大事にしてほしい。

22 ページの「災害時要援護者支援事業」について。個別避難計画は、局も取組を進めると言いつつ、驚くほど少ない件数しか行われていない。支援をスタートさせるにあたっては、区役所も一緒に力を入れていく必要があると思っているがどうか。

釜谷総務課長：個別避難計画の策定については、本市では段階的に進めていると聞いている。泉区においてはこれからといった状況であるが、対象となる方お一人お一人の災害時を想定した状況を考えるには、区民の皆様身近な区役所も一緒に取り組んでいくことが重要と考えている。健康福祉局等と連携し事業を進めていく中で、区の状況や意見も反映していきたい。

麓議員：地域ケアプラザ等とどのように関係性を結んで、どう取り組んでいくかというシステムづくりも十分ではないため、策定件数が少ない状況だと聞いている。課題をしっかりと把握してもらい、泉区で少しでも多くの方の避難方法、支援方法がはっきりとしていくと良いと思う。

31 ページの「認知症支援事業等」について。地域ケアプラザや、ご近所の方から認知症の高齢者の方に関する情報提供があれば、訪問しているのか。

稲垣高齢・障害支援課長：区役所への情報提供としては、ご近所の方が直接来庁してお声をいただくことや、地域ケアプラザ経由でご連絡いただくことがあり、区職員もかなりの頻度で地域を訪問しているが、情報提供があれば、地域を担当している包括の地域ケアプラザ職員と区役所の職員で一緒に訪問したりしている。具体的にどういったサービスが当事者の方にとって必要か、その方の状況をみながら、その方にあった支援につなげられるよう、相談しながら支援させていただいている。

麓議員：一人暮らしで軽度の認知症の方の場合、なかなかご本人が症状を認められなかったり、公的支援が入ることを嫌がる等の状況もある。ぜひ、いち早く具体的な支援につながるような取組をお願いしたい。

2 令和4年度泉区個性ある区づくり推進費事業実績

梶村議員：20 ページの「地域防災拠点機能強化事業」について。コロナ

前は頻繁に防災訓練を実施していたように思う。領家中学校で実施した「モデル訓練」は、今後も実施する計画はあるか。

釜谷総務課長：地域防災拠点訓練については、各拠点で実施しており、昨年度は区内 22 拠点中 20 拠点で訓練が行われた。また、通常地域防災拠点訓練とは別に、避難所の開設から運営までの一連の流れを、実災害規模の想定で行う「モデル訓練」を昨年度初めて、領家中学校地域防災拠点で実施した。今年度も 10 月に中田中学校地域防災拠点において「モデル訓練」を実施する予定。関連機関にも参加いただく形で実施したいと考えている。

梶村議員：以前は、緊急給水栓の開設の訓練で水道局の方に参加してもらったなどの取組を行っていたが、同じような形で実施するのか。

釜谷総務課長：訓練内容の詳細については現在検討しているところだが、実災害を想定すると、区役所、学校、地域の方だけでなく、関係機関等を含めた訓練を実施することがより望ましいと考えており、今年度はお声掛けをしている。関係機関の皆様のご予定が合い、ご協力が得られれば、ぜひ参加いただく形で実施したい。

梶村議員：コロナ禍で本当に防災訓練が実施されなくなってしまった。地域の方も、拠点はどこか、発災時にどこに行ったらいいか等の情報が薄れつつあると思う。ぜひ地域に呼びかけをお願いしたい。

3 令和6年度泉区予算編成の考え方(案)

麓議員：資料3の一番下の段落に書かれている「すべての事務事業の見直しを行う」ことはとても大変であると思う。今日、資料2で令和4年度の事業実績が示されているが、いくら予算をかけて何回実施した、という報告の仕方であり、これで事務事業の見直しが行っていいのか、不安な部分がある。効果としてどうであったか、またそのことをどういう指標で見えていくかということも大事になってくると思う。これについて考えがあるか。

室町区政推進課長：資料3に記載している「すべての事務事業の見直し」については、ご説明が少し不足するところがあったかもしれない。まず、今実施している事業については、どのように行っているか、実際に事業目的達成に寄与しているのか点検していく。すべての事務をやめるとか、変えるとかいうことではなく、資料の前段にもあるとおり、前例にとらわれない議論や歳出改革、データに基づいているかを点検し、

見直しを行っていくという趣旨で記載している。

麓議員：そのためには、責任職だけでなく区職員全体が見直しに向けた気持ちを持たないと難しい。見直しを進め、事業実績の提示の仕方も工夫していただけると分かりやすい。

また、デジタル統括本部もでき、100事業でDX化を進めていくということで、令和5年度で80数事業まで取組が進むと聞いているが、区役所はそこまでではない気がする。DX化により、デジタルネイティブではない方たちにも利便性を実感していただくことが大事だと思っている。局からは、区役所に来庁せずやりとりができるようになり、横浜市全体として何時間分を市民の方にお返しできたという報告を受けている。しかし、区役所に行かない、書類を書かない、ということも大切だと思うが、区役所に来て1回で手続きが終わるということも大切だと思う。今後の区役所DX化の進め方や、ワンストップ窓口について伺いたい。

室町区政推進課長：ご承知かもしれないが、現在、西区と港南区をモデル区として区役所のデジタル化に取り組んでいる。この取組を今後、全区展開も視野に検討が進んでいくという段階になってくると思う。各事業のDX化は関係局が主体となって検討を進めるが、局だけで検討するのではなく、プロジェクトを組む形で進めている。この中で区からは、日々区民と接する中で感じる課題等について意見を伝えている。

麓議員：西区、港南区の取組が横展開されていくにあたっては、区職員のデジタル能力の向上も必要であると思う。区民、市民の方が感じる利便性の向上と、職員の働き方改革がいっしょになって進んでほしいと思う。西区、港南区の状況をしっかり把握し、泉区でも準備を進めてもらいたい。

4 その他(泉区内の道路標示の補修等にかかる対応について(報告))

横山議員：前回の会議での私の発言に対し、今回この資料が示されたと思っている。横浜市、また土木事務所としての対応は大変よく分かった。県と市で管轄が異なるため、お互いの仕事はできないということは当然だが、一方、市民からすると、道路上のものは県も市も関係ないと思う。この視点は重要であり、私も忘れないように日々心掛けている。資料の最後に「地方財政法の趣旨に鑑み、適切に対応するとともに、区と警察の情報共有や施工調整など、県市連携を密に効率的な対応を図り

ます。」とある。この点をより強く進めてもらいたい。決して通学路に限定したことなく、その他の場所の停止線、路上線についても、広範囲にわたり非常に良くない状況であると感じている。今後ともこの問題を注視していくつもりである。区としても引き続き注力してもらい、少しでも良い結果が出るように取り組んでもらいたい。

梶村議員：その他として2点ある。1点目は小児科医の不足について。現在泉区では、少人数で夜間急病、休日救急に対応しており、先生方が大変疲れていると聞いている。また、産婦人科医も不足している。このことについて、区としても医療局等とよく協議してもらいたい。市大センター病院から応援に来てもらっていると聞いているが、この先ずっとそのような対応を続けるのは厳しいのではないか。この課題についてしっかり局と連携してもらいたい。これについては、回答は不要。

コロナについてだが、5類に移行し、我々も感染状況等についてデータとして把握しづらくなってきているが、泉区の状況について分かることがあれば教えてほしい。

齋藤福祉保健課長：現在は定点調査を行っている。直近では、市は15.04、泉は11.0で、泉区は市平均よりやや少ない状況。全国的には20を超えているところもある。この数値の評価だが、インフルエンザなどに例えると、10を上回ると注意報レベルとなる。30を超えると警報扱い。泉区は現在11なので、注意報レベルと考えている。現状、区への問い合わせは、病院を紹介してほしいというような一般的なものがたまにある。また、施設については、週あたり1～2の高齢者施設に集団感染が発生したという報告があるが、適宜入院はできているとの報告を合わせていただいている。重症者が多発しているとか、死亡者が出ているという情報は入ってこない。ただ、週ごとに、集計する定点も数字も右肩がりであり、やや感染が広がっているという印象はぬぐえない。

梶村議員：ぜひ注意深く動向を見てほしい。5類に移行する前は広報されていたが、今はよく探さないと情報が出てこないように感じる。区民が必要な情報についてしっかり分かるようにしておいてもらいたい。

備 考